

スタ」では、地域おこし協力隊の「島シェフ」が考案した岩ガキ料理が食べられる岩ガキ小屋なども予定されております。

秋シーズンには、今年で5回目となる「西ノ島ハーフマラソン」を10月15日に開催することが、決定しております。ランナーをはじめ前夜祭の参加者も増えてきており、交流の場として欠かせないイベントになってきましたので、これまでの反省を活かしながら、参加者の方々に喜んでいただけるよう取り組んでまいります。

地域間交流では、今年度も江府町との経済交流や堺市で開催される交流イベントに参加を予定しております。今年度は、堺市を代表する公園の「緑のミュージアムハーベストの丘」での交流イベントなども計画しており、交流人口の増加や本町の知名度アップに繋がるよう、取り組んでまいります。

両地域との交流をさらに深めるとともに、新たな交流の拡大と本町のPRに努めてまいります。

【定住関係】

昨年から、移住される方の引越し費用や車両航送料などに対する助成制度の新設や移住者向けガイドブックの作成などを進めてまいりました。

今年度は、相談会等でもガイドブックを大いに活用し、様々な支援制度の情報発信に重点をおき、移住・定住の促進と交流人口の拡大を図ってまいります。また、受け皿の整備として大津地区の旧福祉センター跡地に町営住宅1棟を建設するほか、既存の公営住宅の設備改修や空き家改修など、住宅整備も進めてまいります。

【雇用対策】

少子高齢化が進む中、本町でも各種就業人口の不足に加え、就業者の高齢化が課題となっております。今後、このような状況は続くと思われるため、新たに町内の法人に対する支援策として、新規学卒者を雇用した際、人件費の一部を助成する制度を創設いたします。

こうした制度を活用しながら、計画的に人材確保や人材育成を図っていただき、雇用の安定に繋がるよう支援してまいります。

保健・医療・福祉

今年度も「健康寿命を延ばす」ことを目標に掲げ、子どもから高齢者まで、生涯を通じて「こころと身体の健康づくり」を推進していくこととしております。

本町における男女別の主な死因をみますと、男性では癌、女性では老衰が最も

多くなっているほか、死因としては減少傾向にあるものの、脳卒中の発症者数は依然として高い状況にあります。こうした状況を踏まえ、今後も癌・高血圧・糖尿病などの生活習慣病対策に重点を置くこととし、各種検診の受診率向上に取り組みながら、早期発見・早期治療に繋げてまいります。

また、食生活改善推進員の協力を得ながら、食育の推進にも力を入れた健康づくりを展開してまいります。

【医療】

離島で安心して暮らしていくためには、医療体制の充実が、欠かすことのない重要な要素であります。

本町には、島前地域の中核となる隠岐島前病院があり、これまでも施設の拡充や機器の更新、設備の充実に努めてきたところであります。

しかしながら、慢性的な医療従事者不足が続いている状況であるため、町でも本年度より、医療従事者確保に係る担当を置くこととしております。今後は、病院側と連携しながら、より良い医療体制の構築を図ってまいります。

【歯科診療所】

昨年10月に高井先生をお迎えし「にししま歯科」としてスタートいたしました。

ました。治療はもとより、口腔から全身の健康を維持し、充実した生活を目指す「口腔ケア」の取り組みにもご協力をいただいているところであります。

現在の診療所は、開設から20年近く経過していることから、古くなった医療機器など順次更新を進め、施設の充実に努めてまいります。

【結婚・子育て支援】

総合戦略の大きな柱の一つである「結婚・出産・子育ての希望を叶える」という目標の実現に向け、昨年度から、結婚推進事業に取り組んでおります。

独身男女の交流の場として、様々なイベントを企画してまいりましたが、多くの反省点もありました。

今年度は、この反省を踏まえ、推進体制を見直すとともに、男女の縁を取り持つキューピット役の確保に力を入れ、成果に繋がりたいと考えております。

子育て支援につきましても、これまでも出産・子育てに係る経済的負担の軽減に、努めてきたところであります。

本町の出生数は、近年、20名前後で推移しておりますが、身近に支援者がいない子育て世帯も増えておりますので、「子育て支援サポーター」の養成などを進め、支援体制の強化を図ってまいります。

また、働きながら子育てする世帯にとって、受け入れ施設となる保育所の充実が重要であります。

現在、みた保育園においても、3歳未満の入所児童の増加に伴い、乳児室を中心に改修作業を進めております。今後も、産み、育てやすい環境を整えながら、子育てしやすい「まちづくり」に取り組んでまいります。

【高齢者福祉】

全国的にも高齢化社会が進む中、住み慣れた地域で暮らすには、受け入れ施設の充実や地域による福祉支援体制の構築が重要であります。

本町においても福祉施設での人材確保は、大きな課題であったことから、平成27年度より事業所と連携し、福祉職員の確保に支援を行ってまいりました。

今年度からは、認知症を抱える高齢者やその家族に対する支援にも力を入れていくこととし、関係機関と連携しながら、きめ細かい対応に努めてまいります。

また、生活支援サービス等の充実を目指し、地域の多様な主体が参画して、情報共有や連携を図り推進していく協議体を設置してまいります。

住民生活

マイナンバー制度に係る個人番号通

知、個人番号カードの交付等につきましては、これまで大きな混乱も無く、進んでまいりました。確定申告などではマイナンバーの記載も必要となるなど、徐々に活用範囲も広がっております。

本年、7月からは地方公共団体間での情報連携が予定されているなど、いよいよ本格的な活用が始まりますので、遅滞なく準備作業を進めてまいります。

【地籍調査】

今年度の地籍調査事業につきましては、小向地区の詳細測量に加え、新たな調査区域として、高崎地区を選定したところであります。また、調査が完了した美田尻地区の成果の閲覧を行うこととしております。

地籍調査にあたっては、関係者の皆様の協力が不可欠ですので、説明会などを通じて情報を集めながら、円滑に進むよう取り組んでまいります。

社会インフラ

国の公共事業関係予算においては「国民の安全・安心の確保」や「生産性向上による成長力の強化」、「地域の活性化と豊かな暮らしの実現」などに重点をおき、取り組むことを基本方針としております。

本町におきましても、生活・防災・地域

振興に係る事業を中心に、島根県と連携を図りながら、積極的に進めてまいります。

【道路・港湾、漁港・砂防】

道路関係では、県事業による国賀海岸線や珍崎浦郷港線の改良事業が引き続き行われ、新国賀トンネルについては、夏頃に完成する予定となっております。また、昨年から環境省の事業として、整備が進められている国賀浜へのアクセス道路は、今年度中に完成する予定となっております。そのほか、新規では西ノ島海士線の未改良区間であった倉ノ谷地区の道路改良事業に、着手する予定となっております。

町事業では町道大山線や三度赤ノ江線の改良のほか、町道467号線の通学路安全対策、林道焼火線舗装整備などを予定しております。

港湾・漁港関係では、県事業による別府港（大山地区）海岸防潮対策事業が完成し、新規事業として美田尻地区に新岸壁の整備が予定されているところであります。

浦郷漁港の耐震強化岸壁整備につきましては、現在、公有水面埋立申請等の準備を進めており、手続き完了後に現場に着手する予定となっております。

町事業では、珍崎地区の漁業集落環境整備事業を引き続き、推進してまいります。

砂防関係では、県事業による西尾の代川と新規で物井知当川の整備が予定されており、治山関係では、大山地区と新規で珍崎地区の整備が予定されております。

【上下水道】

上下水道関係では、美田浦郷間の送水管更新と別府地区の水圧不足区域の整備を継続して行っております。

下水道関係では、集合処理地域以外の合併処理浄化槽で対応する地域について、個別処理事業を引き続き、実施してまいります。

上下水道施設のハード面での整備は、概ね終了しておりますので、今後は各施設の計画的な更新を行い、安全で安定した施設の運営と快適な生活環境の創出を図ってまいります。

環境

現在、建設中の新しい「ごみ焼却施設」は、今年度末に完成する予定となっております。新しい施設に移行すれば、受け入れ体制も変わりますので、ごみの分別・減量化、リサイクルの推進等について、

早めに情報提供を行い意識啓発を図ってまいります。また、海岸線の漂着物対策につきましても、引き続き補助事業を活用し、世界ジオパークに相応しい良好な